



地域支援センター「みみらんど・郡山」

平成27年度 きこえとことばの基本研修会



第2回 「聞こえの調査から」

6月23日(火)に第2回きこえとことばの基本研修会が行われ、福島県総合療育センターの鈴木雪恵医師より、「聞こえの調査」から見える聴覚障がい児の学びの様子と、生活や学習場面における配慮等についてお聞きました。



「きこえに課題のある児童生徒の学習環境等実態調査」より

【調査・研究体制：福島県養護センター、福島県立医科大学（耳鼻咽喉科）、福島県総合療育センター、聾学校】【助言・協力者：鶴岡美果医師（星総合病院）】【事務局：聾学校福島分校】

福島県における人工内耳・補聴器装用児の学習環境等について教育機関（小・中学校通常学級）での実態を調査

- ① 一次調査→人工内耳・補聴器装用児、きこえに課題のある児童生徒の在籍状況
- ② 二次調査→一次調査により把握したきこえに課題のある児童生徒の在籍する学校に対して、調査用紙による質問
- ③ 三次調査→「きこえに課題のある」児童生徒で、補聴器を装用していない一側性難聴児の在籍する小学校に対して、調査用紙による質問

小学校 人工内耳・補聴器装用児

①問題点

- 学級経営上の一番の問題は学力面であった。
- 周囲生徒とのコミュニケーション障がいでのトラブルがでてきた。

②支援について

- ・医療機関の学校への支援が不十分との回答が得られた。

小学校 一側性難聴児

①問題点

- 授業中や休み時間において、聞こえない耳側や騒音下での話しかけでの聞き取りの困難さがみられた。
- 一側性難聴の一部の児童の学業に影響があることは否定できなかった。

②支援について

- ・一側性難聴児に重要な座席の位置の配慮や周囲への障がい開示、他児への啓発などの指導が少ない。

中学校 人工内耳・補聴器装用児

①問題点

- 学力面では、特に英語が問題になっていた。
- 周囲生徒とのコミュニケーション障がいでのトラブルが小学生より多かった。

②支援について

- ・医療機関と教育機関が連携をしやすい体制を整える必要がある。

小・中学校共通

①問題点

- 聞こえにくさが担当教員に十分把握されておらず、担当教員も指導方法について困っていた。

②支援について

- ・聞こえへの配慮、視覚的情報の提示、周囲の児童に対する配慮、FM補聴システムの活用、支援員の配置、教育支援計画・指導計画の作成等、まだ十分な支援が行われていなかった。
- ・人工内耳・補聴器装用児、一側性難聴児への具体的な指導法の情報提供など聾学校に対して支援を期待している。
- ・医療機関との連携は、直接学校の様子をみての実際的な指導の希望が多い。



「聞こえの調査」のまとめ

- ◇今回の調査をきっかけに、医療機関は人工内耳・補聴器装用児、一側性難聴児の情報を聾学校の地域支援センターに提供し、学校支援は聾学校が行い、さらに養護教育センターに学校支援のコーディネーターとしての役割を依頼することで、各関係機関の役割分担を明確にすることができた。
- ◇現在、養護教育センター・聾学校・医療機関が連携し、普通学校へチーム支援を実施している。

参加者の感想

☆福島県の聞こえにくい子どもたちの状況をより正確に知ることができ、大変参考になりました。

